（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月７日

県立湘南高等学校（定時制）

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの目標や課題に丁寧に対応し、確かな学力の定着させるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取組む。 ②主体的な学習活動を中心に、意欲・関心を高め、社会人として求められる資質・能力を培う。	①多様な生徒の目標や進路の実現に向けて、少人数を生かしたきめ細かい指導を行うことで確かな学力を定着させ、資質・能力の向上を図る。 ②通常形態の学習活動に加え、ICT を活用した授業を積極的に導入することで、意欲や関心を高め、主体的に学ぶ姿勢を養う。	①個々の生徒の特性に応じて、それぞれの目標を設定し、課題解決に向けて丁寧な指導を行い、学力の向上を目指す。 ②通常授業による学習活動に加え、ICT 機器を積極的に取り入れた授業を行うことにより、興味や関心を高め、主体的な学習活動となるような授業展開を行う。	①丁寧な授業を行うことができ、それぞれの生徒に応じた、目標を達成することができたか。 ②情報機器の導入など、様々な工夫による授業展開を行うことで、ICT 機器を自ら活用しようとする姿勢が見られるようになったか。	①多様な生徒が入学し、個々の生徒の特性に応じた目標を設定し、その目標に向けて丁寧な授業が行えた。 ②多くの教科で情報機器を積極的に導入した授業展開が行われた。情報機器を積極的に活用したことにより、興味や関心が高まり、主体的な学習活動の場面が多く見られた。	①想定を上回るほどの学力差があり、今後は習熟度別授業等の導入や、チームティーチング等、個々の生徒の特性に応じた、より丁寧な授業展開が必要である。 ②情報機器を扱う上で基本的な操作等が不十分な生徒もおり、今後はよりサポートできるような体制を整えることが望ましいと思われる。	情報機器を積極的に導入した授業展開が多くの教科で行われたことは評価に値する。	外国につながりのある生徒に対しては、取り出しの授業で日本語の支援を行った。また、生徒の実態に応じて複数のプリントを用意する等、授業展開の工夫を行い、丁寧な授業を心がけた。 ②情報機器の環境整備も整ってきたことから、ICT を利活用する授業が多くなり、結果として、生徒が主体的に授業に臨む場面が多くなった。	①個々の特性を理解し、生徒に寄り添った授業を行うために、教科や年次等で生徒の情報を共有し、授業展開の工夫を試みる。 ②引き続き、ICT を利活用した授業を推進するために、研究授業や研修会を充実させ、組織的な授業改善を行う。
2	生徒指導・支援	①生徒による主体的な行事運営を活性化させ、豊かな人間性を涵養する。 ②ルールに基づいた学校生活のもとで、しっかりとした判断力と規律を守る意識を育て、自律した社会人として成長するよう指導する。	①地域への社会貢献という視点から生徒会活動等の活性化を図る。また、部活動の充実を図るために、予算や顧問配置等の再検討を行う。 ②学校生活の各場面において、円滑な社会参加に向け、基本的な生活習慣を確立し、社会の一員として自立できる規範意識や公正な判断力をはぐくむ。また、支援を要する生徒について外部機関等と連携し、適切な支援対策を立てる。	①学校生活の様々な場面で生徒が自主的に企画し自ら行動する場面を作るようにする。またクラス減に対応できる生徒会活動の実現を目指す。 ②基本的生活習慣の確立を目指し、指導方針の周知を徹底する。また日ごろから教員間で情報を共有や外部機関等と連携し、粘り強い指導や組織的な支援体制の充実を進めていく。	①生徒が主体的に学校行事等に取り組んだか。クラス減に対応できる持続可能な運営体制が構築できたか。 ②校内の指導方針について周知し、生徒指導をおこなえたか。また、支援を要する生徒の情報を共有し、教育相談連絡会議のメンバーを中心に、組織的に支援することができたか。	①生徒の主体的な活動を基盤とする生徒会活動を実現したが、生徒が自主的に行う部分が増えるほど行事の過密日程による生徒の負担増を考慮する必要が出てきた。 ②校内における感染症予防に対する指導の徹底により、基本的な生活習慣が身につき、健康的な学校生活の充実に繋げることができた。また、課題のある生徒に対し、早期に情報共有し、外部機関等と連携の基、問題解決に繋げることができた。	①生徒が自主的にしっかりと行事の運営に取り組めるよう、行事の精選をすすめる。その上でより多くの生徒が行事に積極的に参加できるよう、各行事の活性化を目指す。 ②指導よりも支援を要する案件が多く、個々に合った丁寧な指導と組織的な支援を勧めていったが、継続的な支援を要する生徒が多いのが現状である。各教員と連携のもと、課題解決に向け、引き続き組織的な指導・支援を勧めていきたいと考える。	課題のある生徒に対し早期に情報共有し、外部機関連携し問題解決につなげることができたことが良かった。 生徒会活動、行事の企画・運営のプロセスを通して、組織的な運営方法や人間関係づくりの機会と捉え、振り返りと総括を次の企画、あるいは活動の精査につなげられるとよい。	①生徒会を中心に、生徒の発案による各種行事の運営を行うことができた。 ②教育相談連絡会議を核として、支援の必要な生徒の情報共有や外部機関との連携を行った。	①生徒による主体的な活動を推進するために、生徒と教員が情報共有を密に行い、生徒の意見を反映できる行事運営を目指す。 ②支援が必要な生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、行政など、さまざまな専門機関と連携し、生徒支援を引き続き行う。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 24 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①幅広い進路選択に応えることができるよう、キャリア教育の充実と、進路支援体制を確立する。	①有益で幅広い情報の提供を充実させ、生徒の進路実現を支援する。 ②多様な生徒に応じた指導をするため情報の共有をさらに強化する。	①外部機関と連携して多方面ににわたる進路希望の計画に役立てる。 ②生徒に必要な支援を教育相談連絡会議と連携して組織的に進める。	①生徒が希望する進路に関して計画し、活動できたか。 ②個の生徒に応じた支援を組織的に機能させられたか。	①進路支援を行う企業やハローワーク等と連携し、個々の進路活動計画に役立てることができた。 ②教育相談連絡会議と連携し、進路決定が困難な生徒に向けて必要な支援を行った。	①上級学校へ進学する生徒が年々増えている状況を踏まえて、学習面の支援に対しても計画的に取り組んでいく必要がある。 ②家庭の事情で指導困難な生徒に幅広く対応するために、教育相談連絡会議と連携して職員研修等を充実させる。	生徒の希望する進路実現に向けて、感染症対策を講じて行った分野別進路説明会等は、生徒にとってプラスとなった。また三者面談等でのきめ細かい支援を引き続き行ってほしい。	生徒自ら希望する進路を決定できるように、年次ごとの進路行事を計画的に行うことができた。 就職希望の生徒に対しては、求人票の説明や進路相談を丁寧に行うことができた。	支援が必要な生徒については、ハローワークやキャリア支援の専門機関へつなげる等、教育相談連絡会議との連携を充実させる。
4	地域等との協働	①地域との協働・連携による開かれた学校づくりを目指す。	①インターネット等を通じた情報発信のさらなる充実を図る。また中学校への広報活動を見直し、本校定時制の良い点をアピールする。 ②ＰＴＡ活動に関しては、今後のクラス減に伴う予算の減額や職員数の減少に対応できる管理体制の構築を目指す。	①本校定時制Ｗｅｂサイトの整理、ツイッターやマチコミメールの活用法の検討、中学生とその保護者だけでなく、中学校の教員に定時制のメリットを伝える広報活動を行う。 ②柔軟な予算編成や業務の見直しを行う。	①様々なチャンネルを通じて、必要な情報が必要な方（生徒、保護者、受検生等）に伝わっているか。 ②クラス減に起因する事象に対応できたか。	①定時制Ｗｅｂサイトの整理、学校説明会等の活性化など広報活動と、情報発信に力をいれた。一方で保護者への学校からの連絡が行き渡らないという課題を残した。 ②ＰＴＡ活動に関しては従来より活性化を果たせた。	①来年度は保護者向け連絡を複数のチャンネルからマチコミメールに集約し、発信密度を増やす。そのため、面談等の機会を活用し、マチコミメールへの登録をお願いする。 ②保護者がさらに積極的に学校教育に参加できるような場を学校行事等を利用して設けることを検討する。	中学校の教員に定時制のことを知ってもらうことは非常に重要で成果を期待している。 ホームページで積極的に発信していることは評価に値する。 マチコミの活用に当たり、運用について校内のコンセンサスとルールを明確にし、効果的に進められることを期待している。	①ホームページで教育活動の発信を積極的に行うことができた。中学生向けの学校説明会については、生徒の授業見学を充実させるための内容検討を引き続き行っていく。 ②ＰＴＡ役員のメンバーも多くなり、各種行事への積極的な参加をサポートすることができた。合格者説明会では、ＰＴＡ役員が活動紹介をする等、ＰＴＡ活動の充実に努めた。	①定時制の理解を深めるために、引き続き、教育活動等の情報発信を行っていく。 ②保護者との協力体制を築くために、保護者面談やＰＴＡ活動を充実させ、連携を深める。
5	学校管理 学校運営	①社会から信用される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底する。 ②教職員の働き方改革推進のために職場の意識改革を図る。	①事故・不祥事防止について意識の徹底を図り、事故・不祥事の根絶に努めるとともに、保護者、県民にも丁寧な対応を目指す。 ②クラス減に伴い予期される教職員数の減少に対応できる組織改変と業務の効率化および均等化を図る。	①日常業務の中で教員間の情報交換を活発に行い，事故不祥事防止の意識を啓発する。また電話対応等で外部に丁寧な印象を与える対応を目指す。 ②ワーキンググループ等の整理や業務の適切な配置，仕事分担の均等化等を進める。	①風通しのよい職場となっているか。また電話対応や来客等への対応が適切になされているか。 ②ワーキンググループの整理や，仕事分担の均等化が進んだか。	①電話応対については、啓発活動はしなかったが丁寧な対応の職員が増加しつつある。職員室での生徒や仕事に関する情報交換は活発に行われている。 ②休眠部活動の整理を行い活動している部活動に顧問を手厚く配置できるようにした。また学校行事の精選作業に着手した。ワーキンググループの一部も廃止した。	①今後も油断することなく事故不祥事防止活動を続ける必要がある。生徒や保護者、外部の方への対応について、職員が丁寧に対応できるよう、啓発活動を行う。 ②学校行事の精選が生徒の活動の沈滞にならないよう、一つ一つの行事を大切にし、ホームルーム活動も含めた活性化を目指す。今後もクラス減に伴う教職員数の減少は続くので、それに対応できる学校運営を目指す。	生徒の活動を担保しつつ、精査することは、必要であると考える。生徒に向きあえる時間の確保のために校務運営上、必要な業務を精選し、現有の職員数でできる仕事を残す、あるいは創造できるとよいと思う。	①情報共有が積極的にできるような環境づくりを行った。事故不祥事防止については、職員研修会や打合せ等での情報共有、注意喚起を行い、事故不祥事のない職場環境づくりに努めた。 ②学校行事や部活動についは、精選を行い、スリム化を図った。	①職員が自分事として捉えられるよう、研修会の内容の工夫等を行い、引き続き、事故不祥事防止に努める。 ②職員数や生徒数の動向を踏まえ、必要性に応じて、業務のスリム化・効率化を検討する。